地域づくり表彰

一般社団法人しろにし（和歌山県有田川町）

地域維持レスキュー®

～関係人口創出による地域課題解決～

一般社団法人しろにし

代表理事

楠部　睦美



１．有田川町の概要

有田川町は、2006 年に吉備町・金屋町・清水町が合併して誕生した和歌山県中部に位置する町です。

人口は約 2 万 4 千人で、東西に長く、351km2 と県内では一番広い面積を有する町です。

西部の吉備・金屋地域は全国的にも有名な「有田みかん」の一大産地であり、東部の清水地域は和のスパイス「ぶどう山椒」や優良な木材「紀州材」の産地が広がる農林業が自慢の町です。



緑のダイヤ「ぶどう山椒」

本取組を展開する清水地域は、古くから聖地・高野山との関わりが深く、漢方薬や香辛料に用いる山椒の需要に応えていました。その後、江戸時代に当地で発見された品種「ぶどう山椒」は大粒で香りも強く、現代は日本料理はもちろん、フレンチやスイーツの食材としても重宝されています。

また、江戸時代に開墾された棚田「あらぎ島」や紀州藩主の命を受けて製造が始まった手すき和紙「保田紙」など、古からの景観・文化が今も息づく地域でもあります。



棚田「あらぎ島」

２．活動開始の背景・経緯

しろにし設立のきっかけは、2018 年に遡ります。同年に若年労働者の確保に課題をもつ町東部の製造業者や林業事業体が町に対して、地域に単身者が住むことのできる施設を整備してほしいと協力を求めたことに端を発します。

そのとき町は東部地域の企業で共同寮立ち上げの連携体制を構築すること、整備は町で行うが民間で運営を行ってほしいことといった条件を提示しました。

それを受け、2019 年には発起人の企業を中心とした協議会が立ち上がり、2020 年から 2022 年の間は町が地域づくりを専門とするアドバイザーを招聘。協議会メンバーらと数十回に及ぶミーティングを行い、構想を固めていきました。

そして、構想をもとに町が旧校舎をリノベーションし、企業の共同寮と短期滞在者向けのドミトリー、コワーキングスペースを備えた移住就業支援拠点施設「しろにし」が 2023 年 6 月に開業しました。



廃校をリノベした「しろにし」

一方で、社業がある発起人は、施設運営に専ら関わることができません。そこで施設の完成までに現場や事業を取り仕切る代表理事の選定が行われました。そして、宿泊施設運営のノウハウをもち、まちづくり団体の代表の顔ももつ、楠部睦美が推挙され、代表理事に就任。施設に命を吹き込む団体も2022年9月に立ち上がったうえでの完成でした。



「しろにし」の運営メンバー

３．農家の声からレスキューへ

当面は、有田川町に興味をもつ移住者の支援や地場の企業に就職する方への支援をミッションとして稼働し始めたしろにし。ですが、その翌月に現在の「地域維持レスキュー®」の礎となることがおこりました。

「今年はぶどう山椒が例年にない豊作で、農家同士で助け合うこの地域では収穫を終えることができない。どうしたらいいのか」

地場産業のひとつであるぶどう山椒を生産する農家から悲痛な相談があったのです。

そこで、しろにしでは、現地体験を楽しみながらテレワークで仕事をする「ワーケーション」に着想を得て、地域外から収穫ボランティアを募るとともに産地の食や体験を楽しんでもらう「ぶどう山椒収穫レスキュー」を企画しました。



収穫を楽しむレスキュー参加者

農家からは、「手弁当で収穫を手伝

ってくれる神様のような人がいるのか」と不安な声も聞かれましたが、関西圏を中心に関東からも参加者が現れ、延べ 29 人が産地のピンチを救ってくれました。

参加者からの好評の声もあり、現在も続く同企画は、毎年 80 人を超える参加者が収穫体験を通して農家と関係を深め、観光と併せて地域に親しむことができる人気企画になっています。



４．重要文化財にも支えの手を

「ぶどう山椒収穫レスキュー」を通じて企画運営の素地を築くことができたしろにしに 2025 年、次なる課題が舞い込みました。

町の東部にある国重要文化財の茅葺屋根のお堂「雨錫寺阿弥陀堂」の葺き替え時期が迫っているが費用や人員など過疎化が進む地元での負担が多く困っているとのことでした。



雨錫寺阿弥陀堂

そこでしろにしでは、町のススキの名所「生石高原」に着目。葺き替え材として、ススキを採取する「茅刈りレスキュー」を企画・実施しました。普段、縁遠い重要文化財や観光客としてではなく支える側として観光名所に関わることができる企画とあって、県内外から 105 人を集め、多くの茅が採取されました。茅は乾燥過程を経て、葺き替え材として活用されました。



茅刈りを行う参加者

５．課題と展望

【地域維持レスキュー®の未来】

すでにベースのできあがった「地域維持レスキュー®」については、今後更なる深化を目指して、地域の草刈りや溝掃除といったより日常的ではあるものの、地域維持に必須の作業から、ハレの場である「祭り」のサポートにも取り組んでいきたいと考えています。とりわけ、しろにしの拠点がある二川区の秋祭りでは和歌山県の無形民俗文化財に指定されている農村歌舞伎「二川歌舞伎」が江戸時代から奉納されていますが、過疎化による担い手不足で 4 年以上休止が続いています。



二川歌舞伎

ここにも、関係人口の力を入れることや地元の中学生に演じ手になってもらうなど働きかけを行うことで、歴史を絶やすことなく文化を伝承する素地づくりをして、他地域でも展開できるモデル的取組みにできればと考えています。

【地域の観光商社として】

他方、有田川町の山間部は古くから聖地・高野山との縁があり、参拝者が歩いた「高野街道」や歴代紀州藩主が龍神温泉へ通った湯治の道「龍神街道」が通っています。また、空海伝説にまつわるものや熊野信仰に関わる歴史的資産も残っています。

さらには、山間部ならではの郷土料理「わさび寿司」や温泉、紙漉きなど固有の地域資源も多いものの、それらを知ってもらい高野山の観光客を有田川町側におろしてくる取組は十分ではないという課題があります。



紙漉きを行う職人



わさび寿司

そこで、観光客と地域資源、地域の人々をつなぐハブ的な存在となり、観光面からも地域活性化に寄与できる存在になることを目指していき、地域の困りごとや課題を逆手にとった地域振興を地元の方々や関係人口のみなさんとタッグを組んで実現していければと考えています。